

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

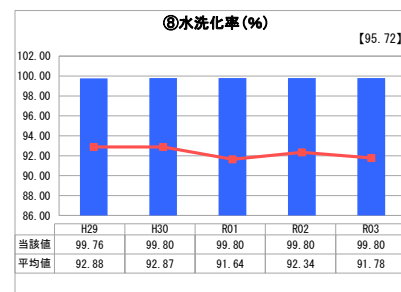
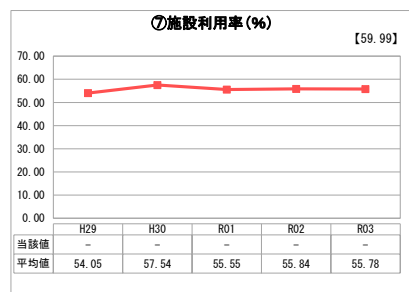
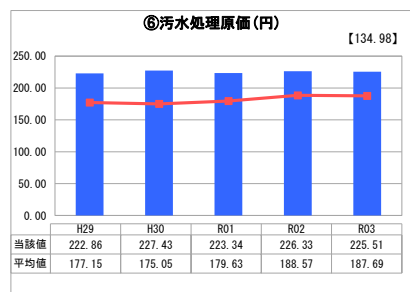
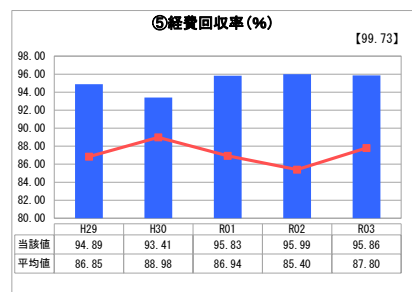
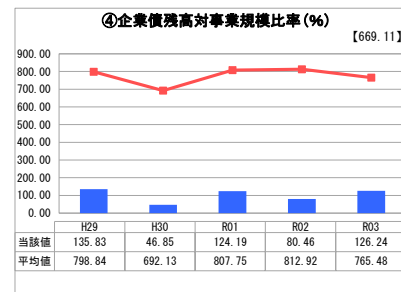
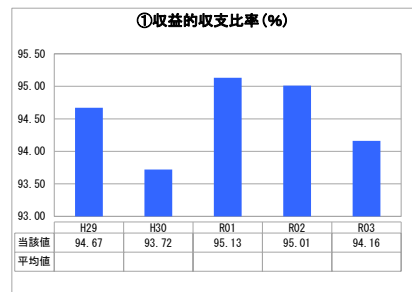
北海道 南幌町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	73.38	73.24	3,924

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
7,378	81.36	90.68
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
5,405	2.64	2,047.35

分析欄
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率  
比率について、100%以下となっており、人口減少等により料金収入の増収は見込めない。企業債残高は減少しているが、広域処理に係る建設費負担に対する新規借入を平成26年度より行っている事から、現在の状況と同程度で推移していくと考えられる。不足額については一般会計からの繰入金で補っています。

④企業債残高対事業規模比率  
企業債残高については、企業債償還終了に伴い減少しているが、広域処理に係る建設費負担に対する新規借入を平成26年度より行っている事から、企業債残高は現在の状況と同程度で推移していくと考えられる。今後は人口減少により営業収益の減少が見込まれ、比率については増加していくと考えられる。

⑤経費回収率  
経費回収率は100%を割り込んでいるが徐々に改善傾向である。今後においても更なる汚水処理経費等の削減が必要である。

⑥汚水処理原価  
汚水処理原価は類似団体平均値より高めとなっており、有収水量に対して汚水処理に係る経費が高くなっていることが考えられる。今後において計画的な補修や機器の更新により維持管理費等の削減の取り組みを行っていく必要がある。

⑧水洗化率  
水洗化率について、約100%となっていますが今後もより良い生活環境の実現、水質保全に貢献

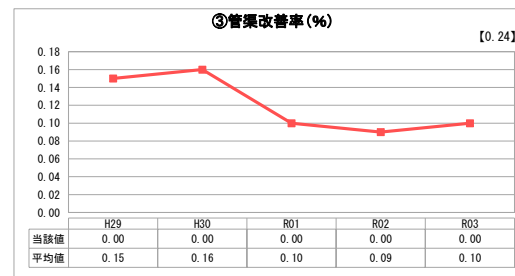
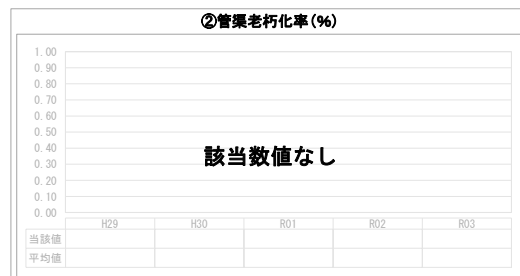
### 2. 老朽化の状況について

当町においては、昭和50年度より下水道事業を実施しており、最も老朽化の大きい管渠で布設から47年経過している事から、管渠の基準的耐用年数が50年である事を踏まえ、定期的な管渠調査や予防保全を行っていく事が必要と考える。

### 全体総括

南幌町の公共下水道事業においては、類似団体と比較すると、企業債残高対事業規模比率が低いのが現状であり、今後においては更なる経営改善に向けた取組を行っていく事が必要です。  
また、汚水管渠・ポンプ施設についても老朽化が進んでいることを踏まえ、今後ストックマネジメント計画に基づき計画的な更新計画を検討していく事が必要と考える。

## 2. 老朽化の状況



※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。